



アガパンサス

24期 主題聖句 いつも喜んでいなさい。
絶えずいのりなさい。
すべてのことに感謝しなさい。

2025年2月



24期 東海教区女性会
発行責任者 柴田恵子



「キリストの恵みに生きる

～あゆみの家との関わりを通して～」

齋藤 幸二 引退牧師



昨年10月に、東海教区の女性会が大垣教会で開かれ、多くの方々と良い交流の時を持つことができたことを感謝しています。わたしは1995年から24年間、大垣教会と岐阜教会で働いてきました。両教会の働きに加えて、あゆみの家とも関わって来ましたが、わたしの働きよりもむしろあゆみの家との関わりから受けたこと学んだことの方がはるかに大きかった、と思っています。

大垣教会では、どのような行事をするにしても、常に教会に集う、あゆみの家の利用者を中心に考え活動してきました。イエス様は体の不自由な人を癒すために会堂の真ん中に立たせました(ルカ3:3)。同じように、大垣教会ではいつも教会の真ん中にあゆみの方々を置いて活動し、また会員による送迎などの奉仕も続けてきました。このように施設の方と共に歩むこと、会員同士がお互いを受け入れ合うこと、仕え合うことまた教会外の方々に助けを必要としている人を、皆で協力して助けてゆくことなど、良い習慣として教会に根付いてきました。あゆみの家の方々を通して「すべての人」を救いに招く神様の恵みにも気づきます。あゆみの方々が喜んで説教を聞いているのを見て、「この方たちは羊飼いであるイエス様の『声』を喜んで聞いているのだ」と何度も思われました。わたしはある時まで自分で真理を探求して神様を見出したと思っていましたが、本当はイエス様が、わたしの心のうめきを聞いてくださり、ご自分の方から近づいて、わたしを導いてくださったのだ、ということが分かったのです。

わたしたちは自分の力や正しさ、また知的能力によってではなく貧しい者の叫びを聞いてくださる神の憐れみによって神の民とされています。わたしたちは、主に愛され、見出された感謝と喜びを、互いに仕えること、共に仕えることによって表してゆきたいと思えます。

あゆみの家講演会 特集 2024年10月14日開催



「大垣教会とあゆみの家が歩んできた道」

大垣教会 名和 桂子

皆様、ようこそ大垣教会へおいでくださいました。あゆみの家をお祈りに覚えていつもご支援いただきまして感謝いたします。本日は大垣教会とあゆみの家のつながりについてお話させていただく機会をお与えくださって、ありがとうございます。

私事ですが、新婚旅行から帰ってきた次の日があゆみの家の開所式でした。それから53年、いろいろなことがありました。限られた時間の中で何をお伝えしたらよいか迷いますが、一言でまとめれば「神様の進められる不思議な業を目のあたりに見せていただいた53年」だったと思います。不思議な業の連続でした。

あゆみの家の創始者は皆様もよくご存じのジョン・ボーマン宣教師です。ここにおいでになる皆様の中で直接お会いになった方もおられるかも知れません。先生はアメリカにおられる時ご自身が幼いころ家庭環境に恵まれなかったことから日本に宣教師として派遣された時から「恵まれない人たちのために施設を作りたい」と願っておられました。

初めは東京の山谷で次は湯河原でその実現に努力されましたが、その思いは叶いませんでした。その当時岐阜教会から西にはルーテル教会がありませんでした。アメリカの宣教師会が大垣や米原、敦賀などに宣教するために宣教師を送ることになりましたが、その方が病気になってしまわれて、急遽代わりに派遣されたのがボーマン先生だったのです。そして、この地で先生の願いがかなえられたという経緯があり、これが不思議な業の出発点となりました。

大垣教会ができてまだ5年くらいしかたっていない時でしたから、教会員も少なく小さな教会でした。しかしながらボーマン先生の熱い思いに教会員が燃やされて心ひとつに取り組みました。お金もありません、力もありません。あるのは「恵まれない方々のために働きたい」という思いと、必要なものは必ず与えられるという信仰だけでした。

当時は今と違って障害を持った方々をご家族が外に出すことをあまり希望されませんでした。ですから栗原でも塀のところからいつも外を眺めておられる方をよく見かけましたし、ご両親が山に仕事に行かれる時には、屋根裏部屋に造ったサークルの中に子供さんを一人残して出かけるお家もありました。いろいろな方々のご協力で施設ができる目途が立った時、垂井の役場に、利用される方を紹介してください、と頼みに行きましたが「そんなことは行政の仕事ですから、あなたたちは余分なことはしないでください」とおしかりを受けました。

でも先生も教会員もあきらめずに、紹介していただいたお家を一軒ずつ訪ね、熱心にお勧めしました。やっと3人の利用者（当時は園生）が与えられました。先ほどサークルで過ごした子供の話をしましたが、その方も「とおる君」といって3人のうちの一人です。いつもサークルの中に座っていましたので、確か15歳くらいになっていたと思いますが歩くこともおぼつかなくて、20歳まで生きられるかどうかとご両親は思っておられたようですが、55歳位まで長生きされて数年前に亡くなりました。初めての園生でしたので今でもよく覚えています。職員2人は教会員でその内の一人が私です。マイクロバスの送迎も教会員が交代でやりました。すべて無給、です。みんな大変でしたがやりがいのある楽しい働きでした。

しばらくしてこの働きが口づてに広まり、徐々に利用される方が増えていきました。作業する場所も必要、宿泊される方の場所も必要です。必要に迫られて次々と建物が増えていきました。法人の許可をいただいたのが7年後ですので、それまではもちろんアメリカの教会からの献金も大きな力となったと思いますが、教会員も頑張りました。それに加えて、利用者の家族の方も地域の方々も応援してくださいました。バザーも年に二回開いてあゆみの家をアピールしました。

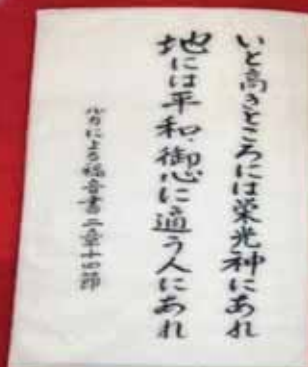
初めは通所の施設だけでしたが入居施設も必要となり、法人の許可をもらうために、一年で自己資金を一億円集める必要があります、さすがに誰もそんな大金を短期に集めるのは無理と思っていましたが、本当に必要なものは与えられたのです。これも不思議です。認可をいただいてからは次々といろいろな所が整えられて現在に至っており8事業所、利用者150人、職員150人の施設として現在も働きを続けています。神様の祝福と大勢の方々のお祈りと支援の賜物と感謝しております。

おかげさまで現在は行政からも信頼され大切なお仕事の委託もいただき、地域の方々からも受け入れられる施設となりました。今、わたしが一番願っていることは今後の教会と施設のつながりがより強くなっていくことです。創始者のボーマン先生を知っている職員はごくわずかですし、初めからかかわってきた信徒も高齢化しており、亡くなった方々もおられます。ガラテア書に「霊によって始めたのに肉によって仕上げようとするのですか」というみ言葉がありますね。

いろいろな教会関係の施設のお話を聞きますと、初めはキリスト教の精神で始めた施設が、いつの間にか教会と全く関係がなくなってしまうということがあるようです。あゆみの家がいつまでも神様のご栄光の光の器として教会との良い関係の中で次世代の方々に引き継がれて行くようにと心から願っています。そのためにも施設に隣接する場所に目に見える形で教会ができることを願って準備していますが、現在開発許可が県から頂けずに難航していますので、是非お祈りの支援をお願いいたします。ピリピ書にある「願いを起こし、かつ実現に至らせるのは神である」このみ言葉を信じてこれからも挑戦し続けていきたいと思っています。

なお、なぜあゆみの家が教会手帳に乗っていないのかと疑問を持たれる方がいらっしやると伺いました。これには何ら他意はなく、ボーマン先生がおられる時に教区に一度そのお話をしたことがありましたが、いろいろな書類の準備が整わずそのまま現在まで来てしまったというところです。今後の検討課題かもしれません。話し出したらきりがありませんので、この辺で終わらせていただきます。言葉足らずで申し訳ありません。これからもどうぞよろしく願います。

本日は、ありがとうございました。



いと高きところには栄光神にあれ
地には平和御心に満ちる人にあれ
かたよ福音書二章十節





「女性会に託された支援活動について」

大垣教会 齋藤 末理子



日本福音ルーテル教会女性会連盟は今年創立 96 周年だそうです。

* 第一回の婦人会大会が開かれたのは 1928 年（昭和 3 年）でした。戦前です。

全国 25 教会のうち、17 教会の婦人たちが参加しました。総勢 70 名。熱気を感じますね。この第一回の大会から感謝献金が始まっています。戦前ということもあり、中国（満州）の日本人学校支援がこの時なされています。

* その後、戦争の間 20 年近く活動中止の時代が続きますが、戦後第一回の大会が行われたのは 1949 年（昭和 24 年）のことでした。全国 31 教会からなんと 103 名の参加者があったそうです。戦後の食糧難の時で、参加者は米と砂糖大匙一杯半を持参したそうで、どんな食事をつくったのでしょうか。

注目すべきはこの時から、女性牧師誕生を願って女性神学生支援の感謝献金が始まりました。この祈りと支援は実を結び、1950 年に、門脇聖子先生が鷺宮のルーテル神学校に入学、卒業されました。

しかし、門脇先生が実際に日本福音ルーテル教会の按手を受けて牧師となったのは 1970 年、実に 20 年後のことでした。女性教職誕生への堅い扉を開いたのは、本教会を揺り動かしたのは、連盟に連なる女性たちの熱い祈りと支援であったと言っても過言ではありません。歴史を動かした感謝献金でした。

* 1955 年には、教職家族への支援活動が始まり、連盟老人ホーム設立ヴィジョンが掲げられて熱心な募金活動が始まります。そして 10 年後には大阪に待望の「るうてるホーム」が完成、いまに至っています。

*その後女性会はアジアに生きるという視点から、ブラジル伝道、フィリピンのストリートチルドレン支援などに取り組みます。

*1993年、ルーテル教会宣教百年を記念して、女性会はマレーシアにあるサバ伸学院の支援を決断しました。そして30年間にわたって変わらぬ支援と交流が続けられ、多くの牧師先生が生み出されていきました。

*そして、わたしたちの東海教区です。

教区内の施設支援を続ける中で、40年ほど前に一つの大きなヴィジョンが与えられました。

「九州には慈愛園。西には、るうてるホーム。そして東には、東京老人ホームがある。でも東海には何もない、わたしたちが将来過ごす老人ホームが欲しい」という発言が女性会集会の中でありました。確か小鹿教会だったと思います。まだ若い私もその場にいましたが、夢のような話でとても実現は不可能に感じました。

しかし、この夢はみなさんご存じの通り、女性会だけでなく東海教区全体で取り組む福祉村構想となり、「ディアコニア」設立、そしてその後も大きな広がりとなっています。

小さな願い。まだ見ぬ夢。大きなヴィジョン。これがわたしたち女性会連盟に神様から託された働きです。そして神様は必ず実現させてくださいます。



これは連盟のシンボルマークですね。おなじみの十字架とブドウのデザインです。豊かな実が十字架のイエス様のもとで実っています。でも、よく見てください。枝が見えませんか。

「私はまことのぶどうの木、あなた方はその枝である」とイエス様がおっしゃった枝が見えないのです。たくさんの細い枝はぶどうの実の後ろに隠れています。この枝はイエス様にしっかりと繋がって、またお互いがしっかりと結びついているのです。

10年30年の支援を、大きな夢を、わたしたちは一人で成し遂げることはできません。でも祈りを合わせ、力を合わせてイエス様につながることはできるのです。実はイエス様が結ばせてくださいます。いつまでも残る実です。

大切なことは、枝である私たちが大きな目標を持つことです。明確なヴィジョンを持ち、まだ見ぬ夢に向かって一步一步を歩みだすことです。果たして、今、わたしたちの教会は、女性会はこのヴィジョンを持っているでしょうか。門脇先生はこう語っておられます。

「女性教職の未来がまだ定かでないあの時代に、婦人会の方々は未来を信じて、熱い祈りとあたたかな具体的な支援を続けてくださいました。皆様がわたしたちを育て、未来を切り開いてくださったことに私は衝撃を受け、感謝があふれてくるのを止めることができません」

さあ、私たちはこれから何をしていきましょうか。

どんな夢を、ヴィジョンをもって進んでいきましょうか。

神様に何を祈り、求めていきましょうか。

たくさんのご意見を皆さんからお聞きしたいと思っています。





あゆみの家講演会 総括

10月14日(月・祝) 10:30~15:30

社会・奉仕部長 光延 博 牧師



ジョン・ボーマン牧師

あゆみの家 小林勉施設長

教区女性会主催「あゆみの家 講演会」が大垣教会を会場に総人数 54 名（内、午前中の ZOOM 参加者 4 名）が集められて開催されました。後藤直紀牧師司式、田口和子氏奏楽による開会礼拝後、小林勉施設長によるご講演の中で、あゆみの家草創期のジョン・ボーマン牧師とご伴侶ベルニダ・ボーマンさんの開拓から、150 名のご利用者と 150 名の職員さんたちが共にあゆむ今日に至るまでの道のりが当時の写真が映し出されながら、ベルニダさんの回想とメッセージの動画も交えられ、話されました。貧しい幼少時代の中で強い孤独感を味わった辛い経験のあったボーマン先生が、世の中から小さくされた弱い立場にある方々への深い共感から、一人ひとりを大切にしていり関わり、認知症になった晩年まで街頭に出て弱い者を助けるための募金活動をされたといひます（召天 2004 年）。大垣に来られるまでの戦後日本に進駐した焼け野原での子どもたちとの出会いを忘れることなく、牧師になって日本に再び帰って来られたこと、当時しょうがいのある方に対する理解の乏しい社会状況の中、ご夫妻と大垣教会員の名和公一さん・桂子さんご夫妻を始め、大垣教会の皆様が力を合わせ、しょうがいを背負った皆様の暮らしやお仕事を守り支えるのに必要な施設が与えられることを祈りながら整えられて行きたいきさつのことなどをお聞きしました。また、今その施設群でなされている利用者や職員の皆様の日々の歩みのことをお聞きする恵みに与りました。また、名和桂子さん、齋藤末理子大垣教会女性会長のお証しからも、集った皆で驚くべき神様の御業を覚えることが与えられた恵みと祝福のひとつときでした。これからの施設の皆様のお歩みに神様のますますの祝福がありますように祈りを合せました。また、大きな刺激を受けた私たちがそれぞれの場に帰って、自分たちの身近な所で神様のために何かできることはないかを考える機会となりました。そして、多くの方々が神様の福音に与られますように、行政の許可が下り垂井礼拝堂建築が実現することを祈念いたします。



花博 2024

5月19日(日) フラワーパーク 会場

5月20日(月) ガーデンパーク 会場

～参加者の感想～

*今回は野外での企画で自由に散策。美しい花を見ながらおしゃべり。心洗われた恵み一杯の時間を過ごさせていただき感謝でした。 *恵みを共に分かち合えてよかった。

*1つところに集まり賛美歌、聖書のみことば、牧師先生からのお話、お祈りが印象に残っています。

*このような企画がなければ、花博に行けなかった。良い企画でした。久しぶりの友達にあえて嬉しかった。



浜名湖フラワーパーク会場(上/右下)



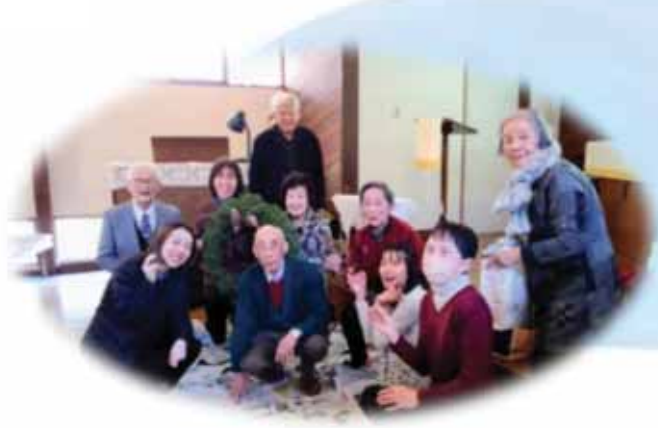
ガーデンパーク会場



皆さん、ありがとうございました。



東海教区のうれしい♪たのしい🎄クリスマス





東海教区女性会 活動報告

～2024年度聖句「いつも喜んでいなさい」～

2025年2月

① 役員会及び活動報告

24期 東海教区女性会会長 柴田 恵子

日付	活動内容	会場	出席・参加者人数
2024年			
2月23日	東海教区女性会定期総会	浜松教会	38名出席（内正議員23名）委任状3名
3月14日	新旧役員引き継ぎ会	浜松教会	8名出席（23期役員4名/24期 4名）
4月18日	第1回 役員会	復活教会	4名出席（24期新役員）
4月29日	教区企画「わいわいワーク」		
	デンマーク牧場・環境整備	新霊山	84名参加（教区女性会メンバー合流）
5月19-20日	教区女性会企画『浜名湖花博2024』		48名参加（2会場/2日間）
	オプション；浜名湖畔温泉1泊2日		23名参加
6月7-8日	第26回女性会連盟総・大会	東京教会	29名出席（新役員4名含む）
7月25日	第2回 役員会	挙母教会	5名出席（社会奉仕部教師 1名含む）
9月12日	第3回 役員会	みのり	5名出席（社会奉仕部教師 1名含む）
9月29日	岐阜・大垣教会礼拝出席/女性会交流	大垣教会	3名出席
9月30日	あゆみの家福祉施設訪問		5名参加（社会奉仕部教師 1名含む）
10月14-15日	教区女性会企画『あゆみの家講演会』	大垣教会	54名出席（ZOOM 4名含む）
	オプション；養老温泉1泊2日	ゆせんの里	10名参加
11月14日	第4回 役員会	浜名湖畔	4名出席
12月上旬	クリスマスカード作成依頼	各教会にて	12/20 デンマーク牧場福祉会へ贈る
2025年			
1月22日	2024年度会計監査	浜松教会	4名(会計監査2名・会長・会計)
2月24日	東海教区女性の集い	静岡教会	女性の集い(会報配布)

② 教区での課題・取り組み

<課題>教区において、次期役員選出が困難である。（現在、役員選出 5名→4名にて運営）

対策）＊教区女性会の役員会を、役員教会を巡回して行いまず知ることから始める。

＊役員働きをわかりやすくする。（役員は、何をしているのか）

＊企画を通じて各教会の特性(得意なこと)や、各教会員のタラントを発掘する。

＊次期役員選出が、スムーズにいくように事前に準備していく。

→会長が選出の責任を1人で負わなくてもよいように！

③ その他

＊東海教区は、静岡沼津教会～岐阜大垣教会に至る距離が長い。教区女性会集会に一同を集めるのは難しい。

＊教区女性会の企画ではあるが、女性に限らず誰でも参加できる集会・イベントに拡げていく。

＊休会中の3教会には、近隣の役員が担当して必ず声をかけて孤立することがないように配慮していく。

＊高齢者を年長者と呼び、動けないことは弱みではなく信仰の先輩として祈りの役割をお願いする。

2024年度	正会員数 130名 準会員 1名	女性会加入 19教会・休会 3教会
--------	------------------	-------------------

～ 24期に交代しての1年、無事に終え、報告することができ、心から感謝いたします。役員一同 ～

2024年度東海教区女性会決算書および2025年度予算案

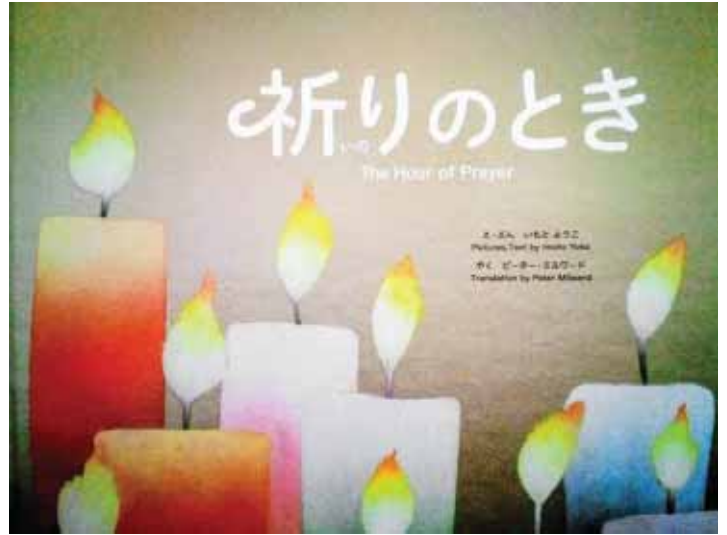
東海教区女性会会計

款	項 目	24年度予算	24年度決算	25年度予算(案)	備 考	
[収入の部]						
連盟	会費・会報	連盟会費(正)	338,000	338,000	312,000	2,600円×130名(2024年度会員数130名)
		連盟会費(準)	0	2,600	0	2,600円×1名(2024年度準会員数1名)
		会報購読料	32,500	26,000	25,000	500円×52名
	小計(a)	370,500	366,600	337,000		
	指定献金	連盟献金(b)	40,000	32,800	40,000	
	支援献金	感謝献金	70,000	66,400	70,000	
		サバ神学生	70,000	13,500		
		ルーテル神学校神学生	0	54,200	60,000	
		リストコイン	80,000	37,974	40,000	
		ACWC支援献金	20,000	25,600	30,000	
TNG支援	50,000	42,950	50,000			
小計(c)	290,000	240,624	250,000			
合計A (a+b+c)	700,500	640,024	627,000			
教区	会費	教区会費(正)	208,000	208,000	192,000	1,600円×130名
		教区会費(準)	0	1,600	0	1,600円×1名
	小計(d)	208,000	209,600	192,000		
	総・大会役員 旅費積立金	当年積立額	26,000	26,000	24,000	200円×130名
		総大会旅費積立繰入	60,000	71,730	0	
	小計(e)	86,000	97,730	24,000		
	補助金	小計(f)	0	0	0	
	その他	利息	0	149	0	内訳:一般57円、旅費積立92円
		雑収入	0	0	0	
	小計(g)	0	149	0		
特別献金	席上献金	60,000	99,826	50,000	2/23総会開会43,006円、10/14集い席上献金あゆみの家へ56,820円	
	指定献金	0	27,000	0	7/2刈谷教会カタリナ会5,000円、他女性会のため	
小計(h)	60,000	126,826	50,000			
支援献金	次世代育成支援	40,000	50,500	40,000		
	デンマーク牧場福祉会	70,000	87,800	70,000		
	あゆみの家	50,000	41,000	50,000		
小計(i)	160,000	179,300	160,000			
前年度繰越金(j)	296,363	296,363	266,096			
合計B (d~j)	810,363	909,968	692,096			
合計(A+B)	1,510,863	1,549,992	1,319,096			
[支出の部]						
連盟	会費・会報	連盟会費(正)	338,000	338,000	312,000	
		連盟会費(準)	0	2,600	0	
		会報購読料	32,500	26,000	25,000	
	小計(a')	370,500	366,600	337,000		
	指定献金	連盟献金(b')	40,000	32,800	40,000	
	支援献金	感謝献金	70,000	66,400	70,000	
		サバ神学生	70,000	13,500		
		ルーテル神学校神学生	0	54,200	60,000	
		リストコイン	80,000	37,974	40,000	
		ACWC支援献金	20,000	25,600	30,000	
TNG支援	50,000	42,950	50,000			
小計(c')	290,000	240,624	250,000			
合計A' (a'+b'+c')	700,500	640,024	627,000			
教区	活動費	事務費	60,000	590	60,000	事務用品
		通信費	30,000	4,424	30,000	郵送料金
		役員会費	110,000	94,820	100,000	4月、7月、9月、11月会場使用料と交通費
		集会費	150,000	209,216	200,000	集い、総会資料印刷、交通費、奉仕牧師・奉仕者・役員昼食代、会場使用料、土産代
		会長旅費	15,000	0	15,000	
		慶弔費	10,000	0	10,000	
		雑費	9,000	880	4,000	デンマーク牧場福祉会クリスマスカード用封筒、シール
	小計(d')	384,000	309,930	419,000		
	総・大会参加費用	小計(e')	60,000	71,730	0	
	支援金	特別支援金	60,000	56,820	50,000	10/14集い席上献金あゆみの家へ
次世代育成支援		40,000	50,500	50,000		
デンマーク牧場福祉会		70,000	87,800	70,000		
あゆみの家		50,000	41,000	70,000		
小計(f')		220,000	236,120	240,000		
予備費(g')	120,363	0	9,096			
積立金繰出	役員旅費積立金繰出(h')	26,000	26,092	24,000	受取利息92円	
次年度繰越金(i')		266,096				
合計B' (d'~i')	810,363	909,968	692,096			
合計(A'+B')	1,510,863	1,549,992	1,319,096			

ご報告 2025年1月22日会計監査で2024年決算の承認を頂きました。

感謝をもってご報告致します。

会計 佐々部典子



2025年度 聖句 「絶えず祈りなさい」

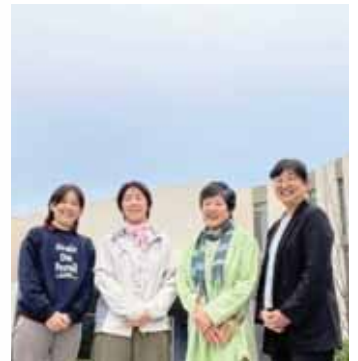
主題聖句
 いつも喜んでいなさい
 絶えず祈りなさい
 どんなことにも感謝なさい
 これこそ
 キリスト・イエスにおいて
 神があなたがたに望んで
 おられることです
 テサロニケの信徒への手紙一
 5章16節～18節

<これからの予定>

- 4月17日 教区女性会第5回役員会 於：復活教会
- 4月29日 わいわいワーク
 教区*福祉会共催：教区女性会合流
- 6月 某日 合同役員会 | 泊研修
 連盟主催：全国教区役員出席
- 11月3日(月・祝日) 東海信徒フォーラム
 於：名古屋めぐみ教会

<2025年において>

2024年、私たちが1番楽しんで活動しよう、と役員会を各地で行いました。花博では心を癒やされ、大垣の地で女性会先輩の燃える信仰に触れました。主にある交わりの力を感じています。さあ、2025年も始めましょう。神様にいっぱい、期待しつつ。



教区女性会役員一同

～あしがき～

24期アガパンサス1号を皆様にお届け出来たこと、感謝いたします。また2024年の活動に参加、ご協力いただいたことお礼申し上げます。2025年の聖句は「祈り」です。東海教区の教会につながる私たちが互いに祈り合い、心をひとつにして、神様の愛を発信していきたいと願います。新年度も神様の恵みを数えつつ共に歩みましょう。柴田(会長)